

南魚沼市水道事業の現状と課題

～第2回 水道事業が抱える課題～

【問合せ】水道課 ☎774・3141



三国川ダム（写真提供：三国川ダム管理所）

畔地浄水場を整備するまでと現在の課題

南魚沼市は緑豊かな山々に囲まれ、昔から清く澄んだ豊かな水に支えられ暮らしてきました。

以前の水道は、井戸水や湧き水を塩素で滅菌処理して供給していたため、とても安価に使用することができました。しかし、小規模な水道施設が各地に点在していたので、施設の管理には大変苦勞をしていました。また、交通網の発展に伴う観光人口の増加やトイレの水洗化、地盤沈下対策への井戸規制など、水の需要の大幅な増加が見込まれていました。このことから、将来にわたり水道を安定供給するため、三国川ダムを水源にして、水道施設を集約した畔地浄水場を整備することが決定したのです。

畔地浄水場は、河川の水を短時間で浄水処理をして、各地へ大量に送水するシステムのため、大規模な建物と大型機器、高度な水処理を行う設備に、多額の投資が必要でした。しかし、運用開始から30年が過ぎ、水の需要が当初想定した水量の半分にも満たない量に低下しているのが現状です。今後、畔地浄水場の老朽化が進み、大規模な施設の更新に多額の費用が必要となることが見込まれています。このため、将来の費用負担が軽くなるように事業方針の判断をしなければなりません。このほかにも「料金が高い」などの課題も抱えています。

今回は、これらの水道事業の課題について紹介します。

南魚沼市水道事業の課題

- ①人口減少と水道使用量の減（将来の経営状況）
- ②高い水道料金（10m³まで一律の基本料金）
- ③畔地浄水場の将来運用と非常用水源（更新費用を抑える事業方針）